

# 平成29年度病害虫発生予察注意報第3号

平成29年8月1日  
愛知 県

作物名：カンキツ  
病害虫名：チャノキイロアザミウマ

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 多い
- 3 注意報発表の根拠

- (1) 7月下旬に行った、ほ場周囲における本種の生息数調査（カンキツ24ほ場のイヌマキ（防風垣）10新梢の払い落とし虫数）において、21.7頭（平成4.5頭、前年5.2頭）と過去10年と比較して最も多かった。
- (2) カンキツほ場（蒲郡市、南知多町）に設置した黄色粘着トラップにおける本種成虫の6月第1半旬から7月第4半旬までの総誘殺数が、蒲郡市では470頭（平成261.8頭、前年359頭）で過去10年と比較して最も多く、南知多町では179頭（平成118.4頭、前年159頭）で過去10年と比較して2番目に多かった。

#### 4 防除上注意すべき事項

- (1) 果頂部の被害は8月上旬から9月に発生するので、防除適期である成虫の発生ピーク予測日（表1）を参考に防除を実施する。なお、7月27日名古屋地方気象台発表の1ヶ月予報によれば、8月の気温は高いと予想されており、今後平成より1℃高く推移すると、ピーク予測日が1日程度早くなるので、今後の気温の推移を踏まえて防除日を設定する。
- (2) カンキツの防除にあたっては、表2を参考にIRACコードが同じ薬剤を連続して使用することは避ける。
- (3) 本種は寄主範囲が広く、イヌマキやサンゴジュ、チャ、ツバキにも好んで寄生するので、これらを防風垣にしているほ場や近くにこれらの植物が存在するほ場では被害を受けやすい。このため、このようなほ場では周辺の寄主植物の発生状況にも注意する。

表1 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日（月/日）

	愛西	南知多	名古屋	豊田	大府	岡崎	蒲郡	豊橋	伊良湖	新城	稲武
第4世代	7/28	7/30	7/23	7/29	7/25	7/30	7/29	7/29	7/28	8/3	8/25
第5世代	8/14	8/16	8/9	8/16	8/11	8/16	8/15	8/16	8/14	8/21	9/20
（前年）	8/11	8/12	8/6	8/12	8/7	8/13	8/11	8/12	8/10	8/17	8/19 <sup>※</sup>
前年差	3日遅	4日遅	3日遅	4日遅	4日遅	3日遅	4日遅	4日遅	4日遅	4日遅	6日遅 <sup>※</sup>
第6世代	8/31	9/4	8/26	9/3	8/28	9/3	9/2	9/3	9/1	9/8	-

各地のアメダス平均気温から有効積算温度を利用して予測。※稲武については、第4世代の前年ピーク日と前年差。

7月31日までは実測値を、それ以降は平年値（豊橋、大府は前年値）を用いて計算。

表2 カンキツのチャノキイロアザミウマに対する主な防除薬剤

農薬名	使用時期	希釈倍数	使用回数	IRAC コード
アドマイヤー顆粒水和剤	収穫14日前まで	5000～10000倍	3回以内	4A
モスピラン顆粒水溶剤	収穫14日前まで	2000～4000倍	3回以内	4A
ベストガード水溶剤	収穫7日前まで	1000～2000倍	3回以内	4A
スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	収穫前日まで	1000～2000倍	3回以内	4A
コテツフロアブル	収穫前日まで	2000～6000倍	2回以内	13
コルト顆粒水和剤	収穫前日まで	3000倍	3回以内	9(B)
ディアナWDG	収穫前日まで	5000～10000倍	2回以内	5
ハチハチフロアブル	収穫前日まで	1000～2000倍	2回以内	21(A)

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、[http://www.jcpa.or.jp/lab/pdf/2017/mechanism\\_irac.pdf](http://www.jcpa.or.jp/lab/pdf/2017/mechanism_irac.pdf)を参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

## 5 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室

電話 0561-62-0085 内線471